東北大学医学部
2023　医学科 | 保健学科

TOHOKU UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE 2023

SCHOOL OF MEDICAL SCIENCES
SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

TOHOKU
UNIVERSITY

医学を通して社会に貢献する人材を育てます

医学は生物学という大きな学問領域の中に分類されますが、特に“ヒト”という生物を主対象としている点が特徴です。そのため医学を学ぶ者には知識とともに高い生命倫理観が求められます。そして医学部は医学を学ぶ学部であると同時に、医師や保健・医療専門職を育成する機関でもあります。人生百年時代といわれる中で、ただ単に長生きするのではなく、心身ともに健康であり続ける時間、いわゆる“健康寿命”を少しでも延ばすことが大切で、医学部で学んだ人たちが中心となって活躍しています。

東北大学医学部は医学科と保健学科から成ります。
医学科では臨床医のみならず医学領域の研究者や医療行政で働く人材も育成します。6年間の学生時代に海外留学する学生も多く国際的な視野を身につけます。卒業生の多くは卒業後十年以内に大学に戻り大学院に入学したり東北大学病院で勤務しながら先進的な医学・医療の研究を行っています。
保健学科では看護師・放射線技師・臨床検査技師という保健・医療の領域で活躍する高度専門職人材を育成します。看護学専攻では看護ケアの本質を追求するような看護学の学習を深めます。放射線技術科学専攻では安全で正確かつ高精度な放射線の基礎知識と技術を学びます。検査技術科学専攻では病気の原因や治療法を判断するための先端医療技術の基礎と臨床を学びます。卒業生の約半数は卒業後も修士課程の大学院生として残り、学部4年間と大学院2年間を通して6年間で保健や医療の諸課題を探求しています。

東北大学医学部は医学を通して社会に貢献することを目指し、医学・医療・保健学の領域で世界をリードできる人材を育成します。

医学部長
八重樫伸生　Yaegashi, Nobuo

Profile

1984年　東北大学医学部卒業
1984年　八戸市民病院産婦人科勤務
1990年　米国フレッドハッチンソン癌研究所博士研究員
1992年　東北大学産婦人科助手
1994年　古川市立（現大崎市民）病院産婦人科科長
1996年　東北大学産婦人科講師
2000年　東北大学大学院医学系研究科婦人科学分野教授
2015年　東北大学副学長・病院長
2019年　東北大学大学院医学系研究科長・医学部長に就任、現在に至る

沿革

医学部医学科

1817年(文化14年) 仙台藩が藩の学問所「養賢堂」から「仙台藩医学校」を独立させ、同時に施薬所(現在の大学病院に相当)を設ける

1872年(明治5年) 宮城県立医学所に改組され、医学部同窓会(艮陵同窓会)が同年を創立の年と定める

1907年(明治40年) 東京、京都に次ぐ第3番目の帝国大学として東北帝国大学が設立

1915年(大正4年) 文部省令第10号により帝国大学医科大学として設置

1949年(昭和24年) 東北大学が国立学校設置法により新制大学となる

2015年(平成27年) 東北大学医学部開設から100周年

医学部保健学科

1913年(大正2年) 4月、附属医院看護婦養成所(県立宮城病院看護婦養成所を移管)を設立

1915年(大正4年) 医科大学開設に合わせ、医科大学附属医院看護婦養成所に改名

1919年(大正8年) 医学部附属医院産婆養成所が開設

1945年(昭和20年) 附属医院厚生女学部の設置

1951年(昭和27年) 医学部附属看護学校・医学部附属助産婦学校を設置

1953年(昭和28年) 医学部附属診療エックス線技師学校を設置

1962年(昭和37年) 医学部附属衛生検査技師学校を設置

1973年(昭和48年) 上記を医療短期大学部として統合

2003年(平成15年) 医学部保健学科を設置

往診医携帯小道具

タイガー計算機

解体新書

Torsion Balance

北斗七星になぞらえて

ロゴマーク

東北大学設立の直接の基礎となった東北帝国大学は、東京、京都に次ぐ第3番目の帝国大学として明治40年(1907年)に創立された。この時の開学の祝賀歌は、この大学を天の中枢を指す北斗の姿になぞらえて、東北の光と讃えている。すなわち、北斗七星には、北極星の様な不動の真理を求め、さらに広く世人の道しるべとなろうとする本学の理念が象徴されている。

詳しくはこちら

TOHOKU UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE 2023

INDEX

医学科 School of Medical Sciences ＞P05

最先端医療・医学研究を体験し、
グローバル社会で自立する
明日の医学を担う人材の育成を目指します

●カリキュラム・ポリシー ＞P06
●学びの流れ ＞P07
●留学 ＞P12

保健学科 School of Health Sciences

●カリキュラム・ポリシー ＞P16
●進路 ＞P20

【看護学専攻】＞P17
‘ケア’の本質を追求する
看護学の学習を深めます

【放射線技術科学専攻】＞P18
安全・正確・高精度な放射線技術へ
可能性は広がり続けます

【検査技術科学専攻】＞P19
病気の原因・治療方法を
判断するための先端技術を学びます

鼎　談

教授：微生物学分野
押谷仁 Oshitani, Hitoshi
×
教授：免疫学分野
石井直人 Ishii, Naoto
×
教授：歯学研究科国際歯科保健学分野
小坂健 Osaka, Ken

不確実性の高まる時代の岐路に「総合知」で立ち向かう

新型コロナウイルスの感染拡大は生命に危機を及ぼすのみならず、グローバル社会が抱えるさまざまな問題をあぶり出しました。これからの世界はどうあるべきか、学際的な知を結集して考えていこうと、東北大学では「感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点（SDGS-ID）」を発足。拠点メンバーにその背景と目指すところ、高校生へのメッセージを語ってもらいました。

自然科学だけでは解決できない問題に分野の垣根を越えて挑む

押谷　COVID-19（新型コロナウイルス感染症）のパンデミックは決して偶然起きたものではなく、起こるべくして起きたと考えています。グローバル化が進み、世界の人口も78億人以上まで増え、感染症だけではなく経済危機や地球温暖化の問題など、さまざまなリスクを内包する社会になってしまっています。これまで日本を含め先進国では自然科学の力でそれらを解決できるような幻想を抱いていましたが、COVID-19によって、科学技術が万能ではないことを突き付けられました。例えば人の死をどう考えるのかとか、あるいはさまざまな感染対策が取られましたが、何をもって人の行動が変わっていくのかは社会心理学の問題になってくると思いますし、自然科学のアプローチだけでは対応できなくなってきていることは明らかです。

幸い東北大学は総合大学で、医学・薬学・工学といった自然科学系だけでなく人文社会系も含め、いろいろな分野の専門家がいますので、そういった人たちが議論をしていくことで、この社会の問題にどう対応していったらいいのかを考えるようなきっかけにしたいと、SDGS-IDを立ち上げました。それはわれわれの世代ではなく次の世代の人たちが考えないといけないことでもありますので、この拠点の中では若手の研究者や学生に議論に参加してもらっています。次の社会をどうつくっていくのかを考えるきっかけにもしたいと、若手向けのセミナーを開いたり、シンポジウムで若手の研究者に発言するような機会を設けたりしています。1年、2年でということではなく長期的な視点で、若手が分野の垣根を越えて議論する場を増やしていければと思っています。

さまざまな分野から参画し「総合知」で実践していく

石井　私は免疫学の研究者として感染症の場合はワクチンの研究、あるいはそのワクチンが効果の発揮する仕組みを明らかにする研究を行っています。しかし、私たちの研究は今回のコロナのワクチン開発につながっているわけではなく、もっと言えばおそらく日本の免疫学者は誰一人貢献できていません。メッセンジャーRNAワクチンという画期的な発明が起こって、それがなぜ効くか、副反応がなぜ起きるかを考察しているに過ぎないので、ある意味で無力感を抱きながらも、何かできないかと模索しています。ただ、こうした研究で見えてきたことや、今まで私自身が培ってきた免疫記憶の仕組みに関する研究成果なども踏まえて、今後ワクチンの方向性について提言ができると考えておりますし、集団免疫という方向から今回のパンデミックを考えていきたい。そのあたりで何か貢献できればとSDGS-IDに参画させていただいています。

小坂　私は厚生労働省クラスター対策班に入って感染者や濃厚接触者の情報を管理するアプリを作ってもらったんですが、個人情報保護の観点から行政はなかなか動きませんでした。そのようなデジタル化の遅れが、保健所等に負担をかけてしまって、うまく機能が回らないといったこともありました。検査をどのように行うのか、ワクチンが供給されても誰がどこで打つのかなど、政策を実行していくには多くの課題があります。それらは押谷先生がおっしゃったように、科学技術だけでは解決できない話もあります。現場のロジスティックスであったり、法律的な課題であったり、保障の問題であったり、広くいろんな学問が寄ってたかってみんなで議論しながら解決しないといけない。そういったものを一歩前へ進めるための拠点がSDGS-IDなのだろうと思います。それも単に話し合っているだけではなく、社会実装まで含めて、地域で実践し、大学の外まで展開していくのが、この拠点のもう一つのミッションかなと思っています。

押谷　これまで学際研究と呼んできたものは、例えば医学と工学が協力すると新しいデバイスができるとか、狭い分野同士がつながって新しいものが生まれるということが多かったと思います。そういったアプローチではなく社会全体の問題をいろんな分野の人たちが考えないといけないという意味で、「総合知」という言い方をしています。小坂先生のおっしゃるように、みんなで議論して論文を書いて終わりではなく、そのような問題をどう捉えてどう解決していくのか。さま

（写真左から）小坂健［厚生労働省クラスター対策班］、石井直人［医学部医学科長］、押谷仁［東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点（SDGS-ID）拠点長／新型インフルエンザ等対策有識者会議新型コロナウイルス感染症対策分科会］

ざまな分野の人たちが協力し、総合知で実践していくことが必要だと思います。

学内外で幅広い人生経験を得て広い視野で考えられる人に

小坂　東京に全国から在宅医療の人を集めてチームをつくって患者さんのケアに当たっている人がいます。彼の活動を見ると、困っている人がいたら自分は何ができるかを考えて、ネットワークを使って新しいことをどんどんやっていける人材というのがこれからは必要なんだろうと感じます。学校で教わったことをきちんとやっていくのも大事なんだけれども、それだけでは世の中解決していきません。私の尊敬する同級生が「人間は遊んだり恋をしたり、スポーツをやったり集団生活をしたり、そういうことで人生を学んでいくのであって、朝から晩まで授業に出ているだけで学べるわけではないよね」と話していました。彼は全国の大学から引く手あまたなんですが、長野の村できこりをしながら在宅医療をしています。それぞれの現場で現実の場面の中で、課題を見つけさまざまな工夫で乗り越えようと頑張っている人たちです。ですからキャンパス内だけに全てがあると思わず、現場を知ること、それに対して若い感性で、それを乗り越えるために何が必要かを常に考え、挑戦できるような人が育っていってほしいですね。

石井　私たち3人は、東北大学医学部の卒業生であり医師免許も持っているんですが、医者をメインとして働いているわけではないのですね。医学の方向もいろいろありますから、医学部を卒業したからといって全員医者になる必要はありません。私のようにマウスを相手に基礎研究をするもよし、押谷先生のように世界を相手に幅広くいろんなことをするのもいいですし、小坂先生のように医師として在宅医療を行い、公衆衛生の分野で行政と関わりながら仕事をするなど、多様なキャリアパスがあります。それを選ぶにはやはりさまざまな経験をするのが大事で、そうした人が次の世代のウィズコロナあるいはポストコロナの社会を背負って立つ人材になっていくと信じています。高校生の皆さんには、医者になるために医学部を目指すというだけではなく、もっと広く世界に貢献できるような大きな視野を持って医学を学んで、それを社会に生かすという志で東北大学医学部を目指していただきたいと思います。そして医学部でも医学、医療だけを学ぶのではなく、東北大学は総合大学ですのでリベラルアーツという形でいろんなことを学び、学生生活の中で恋もすれば部活もして、幅広い人生経験を積むことがきっと将来役に立つと思います。

予測不能な時代を生きる若き研究者に求められるもの

押谷　現在の医学部の学生は覚えなければいけないことが私たちの頃と比べてもすごく増えていて、医学教育も詰め込みになっています。一方で予期できないこと、想定できないことは知識だけでは対応できません。今回のCOVID-19についても、どの教科書を読んでもそこに解決策は書いていませんよね。しかも今の最適解は来週の最適解ではないかもしれない。そういう時代にわれわれは生きていて、特に若い人たちはそういった状況に対応できるような柔軟性を持っていないといけない。知識が豊富で「歩く辞書」のような医者が大事だった時代ではなくなっていて、インターネットなどを活用して最新の情報を自分で咀嚼（そしゃく）して現場に生かしていく、そういう人材が求められているんだろうと思います。

COVID-19や争乱にとどまらず、これからも予期できないことが起こり得るでしょう。この不確実性の非常に高まる時代を生き、予測不能なことに対応していかなければいけない若い人たちには、知識偏重に陥らず、広い視野で多角的な考え方を持てる人材になってもらいたいです。SDGS-IDを通して、若い人たちがそうしたことを考えることにつながってくれたらと願います。　（2022.3.31 取材）

東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点（SDGS-ID）
https://www.sdgs-id.med.tohoku.ac.jp/

School of Medical Sciences

医学部 医学科

最先端医療・医学研究を体験し、グローバル社会で自立する明日の医学を担う人材の育成を目指します。

医学科長　石井 直人
Ishii, Naoto

日々めざましい進歩を遂げる医療や医学研究に従事するためには、常にリサーチマインドを持ち自ら学び続ける向上心が求められます。医学科ではリサーチマインドを涵養し能動的に学び続ける姿勢を身につけるための6年間を提供します。

詳しくはこちら

ゲノム医療や再生医療などの最先端医療は、基礎医学と臨床医学の両輪によって実現されます。本学科では、世界トップレベルの研究と医療の現場を教育環境として、学生と教員の信頼関係の上に高度専門教育を提供し、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる人材育成に取り組んでいます。

教育理念

東北大学医学部医学科は、教員と学生相互の協調により強固な教育基盤を構築し、医学・生命科学の根元を解明する研究および教育を実践し、豊かな人間性と旺盛な探求心を育み、人類の健康と福祉に貢献する指導的高度専門職業人を育成する。

教育目標

東北大学医学部医学科の学生は、将来、医学・医療の様々な領域において指導力ある医師・研究者となるために、6年間の医学部教育において12の教育目標を達成する。

❶生体の構造と生命現象の理解
❷病因、病態、診断、治療、予防の理解
❸コミュニケーション能力
❹基本となる臨床技能
❺生命倫理、医の倫理、医療関連法規の理解
❻情報を管理・処理し活用する能力
❼問題発見・解決の能力
❽科学的方法論の理解と基礎・臨床研究へ応用する能力
❾チームを率いる能力(リーダーシップ)、教育する能力
❿地域、社会と医療制度の理解
⓫内省と自己啓発の態度、生涯学習の態度
⓬国際人としての能力

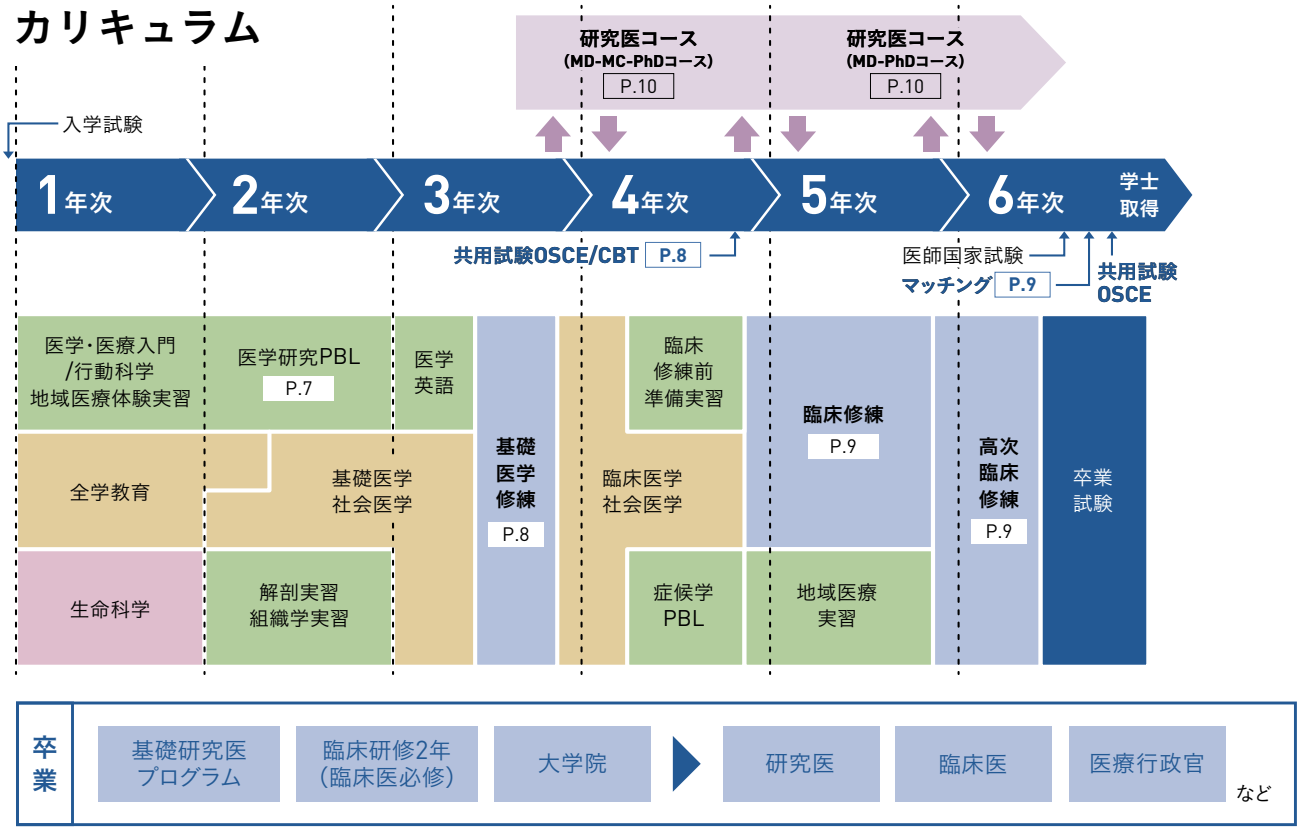
医学部医学科のカリキュラム・ポリシー

1 1、2年次は全学教育科目として幅広い一般教養科目と専門教育に活用可能な科目を提供する。1年次より専門教育科目を開始し、医療人、医学研究者として必要な基本的知識・技能・態度を6年間で段階的に修得させる。

2 研究第一の理念に則り、長期に亘り研究に従事し成果を発表する期間を設ける。医学研究PBL、基礎医学修練、高次臨床修練によって、医療リーダーや医学研究者として必要な能動学習・自己研鑽の技能と態度の涵養をはかる。

3 学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。

カリキュラム



医学部医学科のディプロマ・ポリシー

1 生命現象、人体構造並びに様々な疾患について、分子レベルから細胞・組織・器官・個体レベル、さらに地域・社会・国際レベルに及ぶ国際標準の知識を有している。未解明の事象に挑み創造的研究を行って先端領域を切り開き、成果を世界に発信する能力を有している。

2 優れた倫理観と暖かい人間性を備え、科学的根拠に基づく医療を実践する基本的能力を習得している。地域に密着して医療を実践するとともに、国際社会に医療貢献する能力を有している。

3 医療の実践と医学の研究を通して、我が国の医学研究、教育、医療を支えると伴に、ワールドクラスの研究の推進、新しい学問の創造、人類への貢献を担う能力を有している。多職種間の連携・協調、学際的研究交流等を円滑に行うコミュニケーション能力とチームを率いるリーダーシップの素養を有している。

School of Medical Sciences

医学部 医学科

1年次

全学教育科目の開始

1年次は全学教育で幅広い教養を身につけるとともに、専門教育の基礎となる3科目類から構成される科目も履修します。全学教育科目には「生命科学」の講義もあり、必修科目として医師として必要な人体の生物学を学びます。

Pick Up Curriculum　研究室訪問

新入生には、入学後間もない5月～6月に、研究室を訪問し研究テーマなどを取材する機会を用意しています。続いて、7月までに医学研究に不可欠な遺伝子組換えや実験動物の取扱に関する講習を全員が受講し、様々な研究に参加する準備が整います。これをきっかけに研究室に通い始め、研究に着手する1年生もいます。

医学専門教育科目の開始

1年次の専門教育科目として「医学・医療入門/行動科学」があります。これは複数のテーマからなるグループ学習・実習・講義で、1年間続きます。例えば少人数ワークショップでは、医師として必要な職業倫理、患者の権利や利益に関する基本原則などを自ら考え、グループ内、グループ間で議論します。早期医療体験実習では、血圧測定、心肺蘇生法、車椅子介助や高齢者介護の基本スキルを身につけた後に医療・介護施設を訪問し、実際の現場を体験します。また東北大学病院内では様々な職種のスタッフが医療に深く関わっていることを見聞し、チーム医療の重要性を認識します。医療コミュニケーション実習では、いくつかのテーマで模擬患者さんを対象として医療面接のトレーニングを行います。また、東日本大震災の被災地の地域医療を担っている医師の講演も聴きます。後期からは、基礎科目の中の「解剖学・生理学序説」、「医化学」、「免疫学」、「放射線基礎医学」「遺伝学」が始まります。

2年次

解剖実習の開始

約3カ月にわたり、解剖実習が行われます。解剖実習は単に人体の肉眼的構造を知識として習得するだけではなく、献体された方々と献体に深い理解をくださったご遺族に対する感謝の気持ちや、社会の人々の期待に応える自覚を持つことによって、将来医師に進む上での大きな精神的教育にもなります。
また1年次から続く専門科目として「生理学」「組織学」「発生学」「薬理学」「病理学」「微生物学」が始まります。
またこの学年では「医学研究PBL」が行われます。PBLとはproblem-based learning（問題解決型学習）の略で、医学のさまざまな最先端のテーマについて、自ら問題点と学習項目を発見し、グループによる討論・発表を行います。

Pick Up Curriculum　医学研究PBL

学生はいくつかの先進的な医学研究に関するテーマから最も興味を持ったものを選び、初めに教員によるミニレクチャーを聴講します。その後、少人数のグループで課題を抽出して仮説を立て、その仮説を検証するために必要な情報を自ら収集し、最後に発表と討論に臨みます。これらの過程を通して、学生は将来、医学研究を実践するために必要な探究心、問題抽出能力、柔軟な思考を涵養します。

3年次

基礎医学修練の実施(研究室配属)

3年次には、社会医学系専門科目として「公衆衛生学」「衛生学」「法医学」に加え「医の倫理学・社会学」が始まります。また4月から「医学専門英語」としてE-learningと医学英会話のグループ学習を行います。
夏休み明けには、「研究第一」を建学理念とする東北大学の特徴である、「基礎医学修練」が行われます。各基礎系・社会医学系分野および基礎研究も実施している一部の臨床系分野に、学生が研究者として所属し、そこで20週にわたって研究を行うというものです。中には海外の研究機関で基礎医学修練を行う学生(25名程度)もいます。そして最後にその成果を口頭あるいはポスターを用い、学会形式で報告・討論を行います。なお、冬期休暇が明けた後、臨床系専門科目の講義が始まります。

Pick Up Curriculum　基礎医学修練

複数の医学部でも学生の基礎系分野配属は行われています。しかし、本医学科で行われている修練は他大学にはない、特記すべき点があげられます。即ち、1)修練期間中は月曜から金曜まで、2)その間は朝から夕方まで、フルタイムであること。 3)配属分野は学生の希望をできるだけ優先し、4)最大でも各分野4-5名程度の少人数教育であること。 5)分野によっては、ある期間、海外での修練も可能であり(毎年25名近くが海外研修を体験)、6)一部の成績優秀な学生には奨学金によるサポートがあること。 7)多くの学生が研究成果を発表しますが、その運営は学生主体であり、8)発表者の中から優秀者の表彰があることです。

4年次

臨床系専門教育

この学年では、臨床実習を開始するために必要な臨床に関する医学的知識を習得するだけではなく、臨床的な技能と態度を身につけます。臨床分野は多数の診療科に分かれています。しかし人の病気は一つの診療科だけに限られるわけではありません。また、病気の徴候は人によって様々であり、それぞれの専門性だけに頼ると、診断や治療の遅れにもなりかねません。そこで本医学科ではつながりの深い複数の診療科をとりまとめ、それぞれのブロック別に講義と試験とを実施します。4年生は全てのブロックの試験に合格した後、改めて2種類の全国医学部共通の試験(共用試験)を受け、この合格をもって、「Student Doctor(学生医)」が付与され、次の臨床実習に進むことになります。

Pick Up Curriculum　臨床修練前準備実習

全国医学部共通の試験(共用試験)では医学的知識を問うCBT(Computer-based testing)の他に、実際の臨床技能と態度を測る客観的臨床能力試験OSCE(Objective structured clinical examination)が行われます。従前の医学教育は医学知識重視型でしたが、現在では医学生のうちから医療面接や身体診察などの基本的な臨床技能と態度の習得が重要視されています。そこで本医学科では臨床修練がスタートする前に、8-9名のグループに分かれ、ローテーション形式の実習で、臨床実習に参加するために必要とされる技能と態度をしっかりと習得します。

School of Medical Sciences

医学部 医学科

5年次

Student doctorとして診療に参加

4年次後半から臨床修練(臨床実習)が開始され、以後の4年次と5年次は臨床修練に費やされます。
この期間、多くの診療科（一部は選択)をローテートします。大学病院では、一つの診療科は複数の医療チームから構成されていることが多いのですが、原則、その一つに所属し、患者さんの診察、指導医へのプレゼンテーション、診断・治療方針に関してのディスカッションを通じ、診療参加型臨床実習を行います。
診療科によっては、地域の病院への派遣も行われます。なお、カリキュラム外の企画として、東北大学と関連の深い病院が多数参加する臨床研修病院説明会が、主として5年次と6年次の学生を対象として開催されます。

6年次

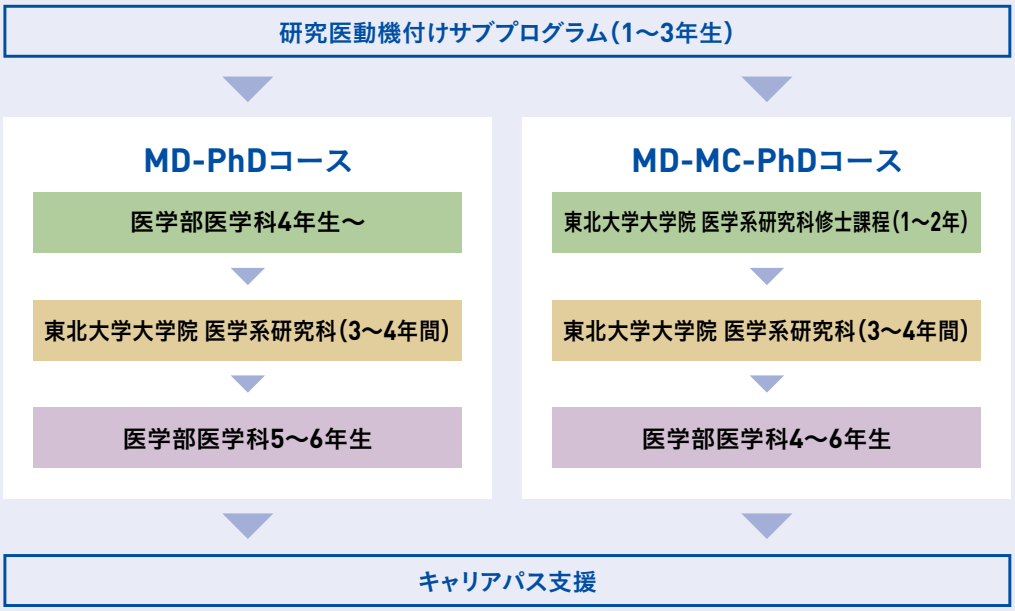
高次臨床修練で研鑽

医学科6年生は希望する診療科に4週間単位で配属になります。
学生は各科の医療チームの一員となって診療に従事します。また、交換留学制度等により海外の大学・医療機関での実習も可能です。
多くの医学生は、今後進みたい診療科を念頭に入れて選択することが多いようです。なお、この高次臨床修練の期間の間に臨床研修マッチング登録を行い、最終的な研修病院先は秋に決定されます。
６年次後半は、卒業試験を経て医師国家試験への準備期間となります。
卒業試験では共用試験臨床実習後OSCEも行います。

研究医養成の取り組み

研究医養成プログラム

東北大学では、医療の発展に寄与するため研究医を養成すべく、研究医養成プログラムを実施しています。
東北大学大学院医学系研究科では、「研究医養成プログラム」にもとづき、医学研究を志向する医学部医学科学生に対し、早期に研究を発展させる機会を与えることによって、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者を養成することを目的とした研究医コース（MD-PhDコース）と、基礎医学修練から切れ目なく継続的に研究を発展でき、海外留学中での受験や長期間の海外での研究が可能な研究医コース（MD-MC-PhDコース）を設定しています。



Message

先輩からのメッセージ

医学生が研究するということ

東北大学医学部は、患者さんの治療に取り組む医師になるだけでなく「医学研究者」としての医師への道が開かれています。大学1〜3年生の座学や豊富な実習を通して基礎医学について深く学ぶことができるのも、東北大学の特徴だと思います。東北大学の「門戸開放」の気質により、大学1年生の時から最先端・充実した設備と優秀な先生方のもとで、本格的な研究を行うことも可能です。研究医コースは、自身の研究に全力で取り組み研究医を目指すために大変強力なサポートと充実した環境を提供しています。自身の研究に集中して取り組める環境で、研究・教育指導を受けることができます。自身も医学科1年生の時から研究に取り組み、研究医コースに進んで論文を書くことができました。2021年春に学位を取得し、現在は医学科5年生です。「研究をする医学生」として全力で取り組むことのできる環境と制度が整っており、非常に充実した学生生活を送っています。

MD-MC-PhDコース修了
坂田 菜摘さん
（医学科5年）

［出身高校］
長野県立松本深志高等学校

Voice

学生の声

医学科6年　長谷川 健さん
［福島県立福島高等学校出身］

私が東北大学を志望したのは世界水準の学問や研究ができる点、全国から集まる同期達と高め合える点を魅力に感じたためです。
実際に本学では最先端の研究に取り組む先生方から講義を拝聴でき、また留学生の方々と関わる機会も多くありました。さらに同期達は早くから研究を進め学会で賞を得る人、海外での就職に向けた勉強をする人、サークルや部活や学外活動で大学生を楽しみ尽くす人、全国規模の大会で活躍をする人などなど、個性豊かで自分の道を行く尊敬できる人ばかりです。勉強に対する意識も高く、こうした仲間に自分も大きく成長させてもらっています。ぜひ皆さんいらしてみてください。

Message

先輩からのメッセージ

東北大学病院　佐伯 尚美さん
［令和３年３月卒業］

地元出身の自分にとって本学はずっとごく身近な存在でありましたが、卒業した今になって学生時代は恵まれていたと思い返します。アカデミアの最先端を走る方々から気軽にご指導いただいたり、そのためのリソースを簡単に得られたりと、まさに実学尊重・門戸開放の言葉通り。時には同期であっても互いの専門に関して意見を交わしたりと、常に医療と医学が不可分の状態でした。
また、医学祭実行委員として活動する中で得た人との繋がりは、現在の医師生活にも活きています。多彩な課外活動の中で掴み取ったものは、きっと将来を豊かにすることでしょう。ここ杜の都で大きく羽ばたくための第一歩を踏み出してみませんか。

STUDY ABROAD

国際化推進と英語コミュニケーション能力の開発

医学科では東北大学の理念に則って、教育目標のコアに「国際人としての能力」を掲げています。具体的には、(1)地球規模の研究・診療に従事するため、国際的視野を身に付ける、(2)国際人としてのコミュニケーション能力を身に付ける、の2項目です。
6年間のカリキュラムに、海外留学の機会が豊富に設けられています。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため海外渡航に代わり、沖縄科学技術大学院大学(OIST)への国内留学を行っています。OISTは世界60ヵ国以上の学生・教員が集まる国際色豊かな環境で、教育と研究は全て英語で行われます。日本国内でありながら海外留学と同等の経験ができる学際的な大学院大学に、医学科3年次の基礎医学修練で希望者が3ヶ月の国内留学を行いました。

沖縄OIST 沖縄科学技術大学院大学　参加者レポート

城田 紗英さん　医学科4年生／参加期間：令和3年10月7日～12月22日

私は基礎医学修練のうちの約3か月間、杉山(矢崎)陽子先生の研究室に所属しました。そこでは主にキンカチョウという鳥を用いて、歌を覚えるための臨界期の神経メカニズムについて研究しました。今年で10周年を迎えたOISTでは、数多くの新しい設備がそろっており、とても充実した環境の中で学ぶことができました。生物学的な研究だけでなく、化学や物理学、情報工学の研究が入り交じっていて、様々な国から来た人との交流は日本国内で他では得難いものがありました。公用語は主に英語だったため、はじめは慣れない環境に苦労することもありましたが、研究室や出会った人々に恵まれ、とても楽しい生活を送ることができました。
研究室の方々はあまり研究経験のない私でも温かく迎え入れてくださりました。研究の他、ミーティングやプレゼンを通じて英語を使うスキルも向上しましたが、これからもっと専門的な知識を積んで、より積極的な議論が交わせるようにしたいと思いました。また、学んでいることだけではなく、文化や考え方も全く異なる人と関わる中で多くの刺激を受けました。自分の考え方や将来性について考えるよい機会にもなりました。海や森に囲まれた素敵な環境で、このような貴重な経験ができたことにとても感謝しています。

主な留学先 [2019年]

アメリカ
国立衛生研究所(NIH)
ヴァンダービルド大学
カリフォルニア大学サンフランシスコ校
サンフォードバーナムプレビス医学研究所
サンフランシスコ総合病院
ジョンズ・ホプキンス大学
ハーバード大学
ハワイ大学
マサチューセッツ総合病院
ミシガン大学
メイヨークリニック

イギリス
エクセター大学
サウサンプトン大学
リーズ大学

オーストラリア
グリフィス大学
西オーストラリア大学

スイス
チューリッヒ大学

タイ
タマサート大学
チェンマイ大学
マヒドン大学

ネパール
カトマンズ医科大学

ノルウェー
ベルゲン大学

フィリピン
サンラザロ病院
熱帯医学研究所(RITM)

TOPICS

大学院への進学

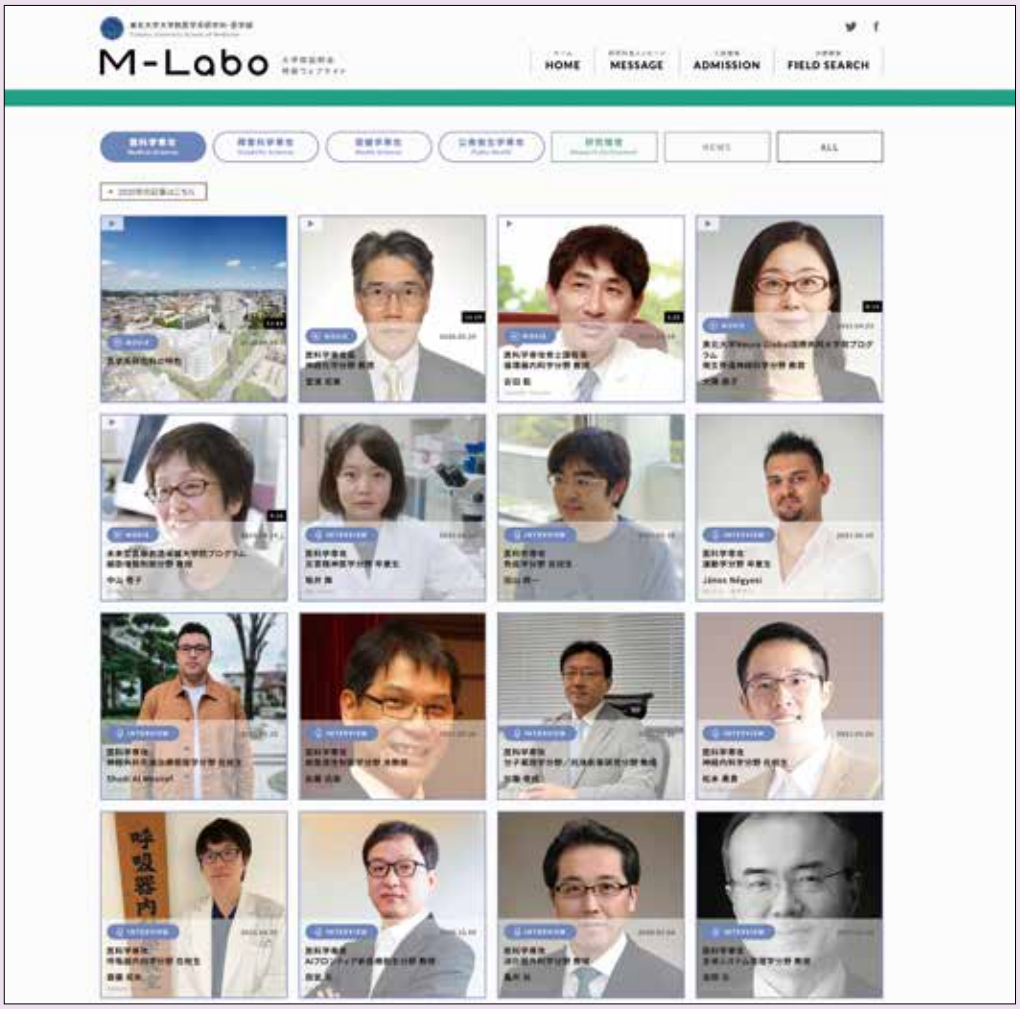
東北大学大学院医学系研究科は、高度な専門性をもって、我が国と国際社会の医療や医学研究に指導的な立場で貢献する人材を目指す方を、修士課程(前期課程)・博士課程(医学履修課程・後期課程)で求めています。
昨今の高度化･多様化する医学･医療を取り巻くニーズに応えるため、様々な教育コースや教育支援プログラムを設け、常に最先端で最高レベルの教育・研究を推進しています。

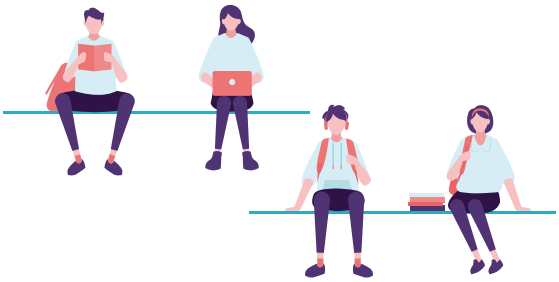
TOPICS 01

大学院説明会特設WEBサイト「M-Labo」

https://www.med.tohoku.ac.jp/m-labo/

WEBサイト「M-Labo」では、大学院医学系研究科の各種専攻・教育プログラム、研究者や研究環境などを動画やテキストで紹介しています。
在校生や卒業生からのメッセージも紹介しており、研究の魅力や将来の進路を見据えた貴重な話題にも触れることができます。



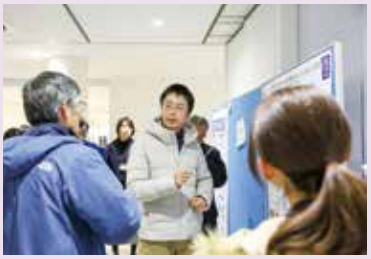


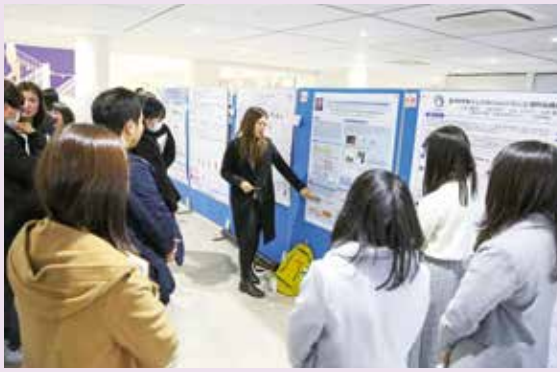
TOPICS 02

大学院リトリート発表会

https://www.med.tohoku.ac.jp/grad/retreat/

リトリート大学院生研究発表会は、医学系研究科の大学院生が主体となって計画・運営・開催する学内研究発表会です。多分野にわたる研究者が参加し、交流を深めます。海外からの参加者もあり、海外での研究生活について知ることができる貴重な機会となっています。





2019年の開催の様子(2020～21年はオンラインで開催)

School of Health Sciences

医学部 保健学科

看護学専攻
放射線技術科学専攻
検査技術科学専攻

最新の知見に基づく保健医療の実践経験を通じ人々の健康と社会を支えるヘルスサイエンスを創造する人間性豊かな研究志向の人材育成を目指します。

保健学科長　大森 純子
Omori, Junko

保健学科では、人が健やかに生きることを志向する倫理観を涵養し、豊かな社会の実現を志すヘルスサイエンスの次世代リーダーを育てます。最新の知識・技術、新たな課題に挑む柔軟な思考力・創造力・発信力を修得します。

詳しくはこちら

教育理念

少子高齢社会の到来による社会状況や保健・医療を取り巻く環境の変化の中で、予防から健康管理までを一貫して考える総合医療が求められています。保健学科では、このような社会的要請に応えるために、人間性豊かで幅広い教養と確固たる倫理観を有し、かつ、科学的な知識と技術、そして冷静、緻密な総合判断力を備えた保健・医療専門職を育成します。また、人々の健康的な生活を支援するために、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアを実践できる人材を育成します。

教育目標

リサーチマインドを備えたヘルスサイエンス（健康科学）を牽引する、高度専門職、教育者、研究者を育成する。

❶人命を尊重し、豊かな人間性を持ち実践力を備えた医療人を育成します。
❷人間としての生活の質（Quality of Life）の向上を大切にする医療人を育成します。
❸チーム医療を柱に、総合的に医療現場を支援する教育を行います。
❹東北地方の地域性をも考慮した、地域医療をすすめる医療技術の教育を行います。
❺医学系分野と有機的に連携しながら総合的な教育を行います。
❻世界の人類に貢献しうる最先端の医療技術の教育を行います。

医学部保健学科のカリキュラム・ポリシー（抜粋）

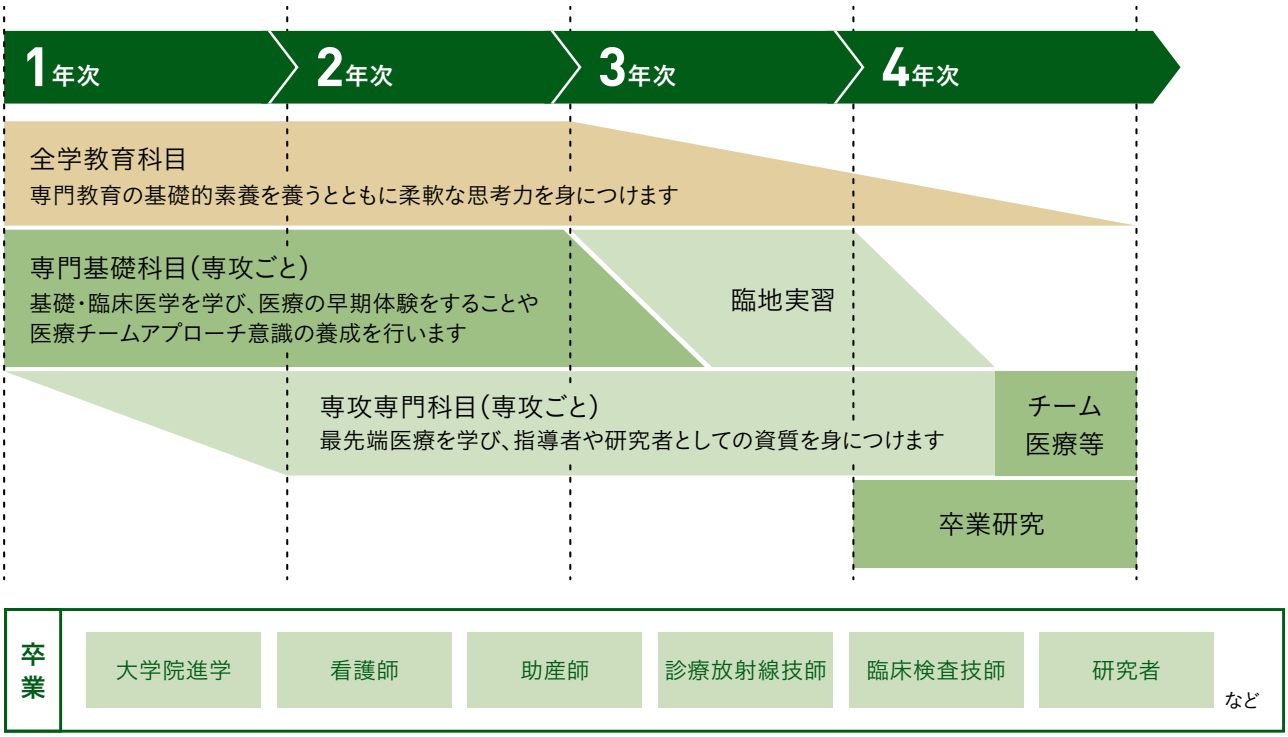
1 幅広い教養を修得するための全学教育科目を学ぶとともに、専攻の専門の基礎となる科目による動機づけ、専門の知識や技術の習得、臨地実習を通じた応用力の向上をはかる。

2 ライフサイエンス、ヒューマンサイエンスを探究する姿勢を尊重し、授業・実習、特に卒業研究によって研究マインドを涵養し、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍する能力を育成する。

3 学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。

※全文は東北大学医学部ウェブサイトをご覧ください

カリキュラム（看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻）



医学部保健学科のディプロマ・ポリシー

1 高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を有している。

2 科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を有している。

3 冷静、緻密な総合的判断の元に、優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する能力を有している。

看護学専攻 Nursing

‘ケア’の本質を追究する看護学の学習を深めます

21世紀は‘ケア’の時代といわれています。では看護が担う‘ケア’の本質とは何でしょうか？看護は、人々が潜在する能力を最大限に発揮し、自らの生活を健康的な生活に整えていく過程を支援する活動です。たとえ、死の際にあっても健康的な生活が実現できるように支援することなのです。また、看護は病院、学校、職場、施設、日常の暮らしの場と人々の生活のあらゆる場で実施されています。そのため看護職には深い人間理解と高度な見識が必要となります。看護学は、これらを支える科学の分野です。

1年次

幅広い教養が身につく

幅広い教養を得るために全学教育科目を学ぶとともに、生命の尊厳を理解し、対象の人権擁護の基盤としての看護の哲学と倫理観を身につけます。学習成果の適正な評価とフィードバックによって、学生の内省・自己啓発と能力開発を促進します。

2年次

看護の基礎を学ぶ

看護の基礎となる科目の学習を通して、専門知識を習得します。看護専門職者として優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健･医療に貢献する基本的態度を学びます。また､リーダーシップ及びメンバーシップの役割を理解し、自己に課せられた責任を果たす態度を学びます。さらに、科学としての看護学を探究する姿勢を身につけるために研究の基礎を学びます。

3年次

知識と技術の基盤を作る

対象の特性に合わせて身体・心理・社会的ニーズを判断し支援するうえでの必要な知識・技術・態度を専門領域ごとに学びます。看護に関する様々な問題を正しくとらえて解決するための基本的な能力を身につけます。特に3年次からは現場での臨地(病院)実習が始まります。これらを通して社会の変動に伴うヘルスニーズを見極め、対象や地域の特性に応じた看護の役割を理解し、継続看護を提供できる能力を身につけます。

4年次

科学的かつ深い専門知識の習得

高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を得ながら、科学的根拠に基づく看護を実践し、他の保健・医療等の専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を身につけます。そして、卒業研究によって研究マインドを育み、看護学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍できる能力を身につけます。さらに、看護職者として自己評価ができ、自ら学習を継続し専門職業人として生涯成長しつづけていくことを学びます。

放射線技術科学専攻 Radiological Technology

安全・正確・高精度な放射線技術へ
可能性は広がり続けます

放射線医療には画像診断、核医学、放射線治療の3つの領域があり、超音波・磁気・X線・放射性同位元素によって人体の内部を画像化し診断すること、疾患部を放射線によって治療することを行っています。放射線医療は安全で正確かつ高精度に施行されることが絶対条件であり、その基盤となる学問が放射線技術科学です。放射線技術科学は医学と放射線の基礎から医療機器の理論、診断画像の撮影および構築法、放射線治療および生物学、放射線計測法および管理など広範囲な学問領域からなります。

1年次

幅広い教養を習得し人間性を深める

1年生では主に幅広い教養を修得するための全学教育科目を学びます。これにより人間性を深め、将来医療、医学の現場で活躍するための土台を構築します。加えて専門教育への橋渡しとしての専門基礎科目も学びます。これによりシームレスに基礎学問から応用学問の習得を進めることができます。

2年次

一般教養から専門への橋渡し

診療放射線技師が扱う放射線などは物理学の法則に基づいています。また、放射線機器を知るためには工学の知識が必要になります。この放射線機器を扱い、医療に携わるためには、医学・生物学の知識も必要です。この観点から、2年次では理学、工学、医学の基礎を学び、3年次以降のより専門的な教育へスムーズに橋渡しを行います。

3年次

幅広い専門知識とその実践を学ぶ

3年生では放射線技術学の専門知識をさらに深めます。後期からは、数名のグループに分かれ、東北大学病院や近隣病院で臨地（病院）実習を行います。臨地実習を通して、講義や実験等で修得した基礎知識を医療の現場でどのように適用し応用すべきかを学ぶとともに、最先端の診療技術や患者さんの接遇について実体験します。最先端機器を実際の目で見る貴重な機会であるとともに、診療放射線技師の社会的役割を認知し、患者さんや医師および他のメディカルスタッフ等との関わりに関しても間近に接することができる良い機会です。

4年次

研究マインドを身につける

4年生の前期は、3年生に引き続き病院実習が行われます。それと並行して、7分野に分かれて卒業研究が始まります。卒業研究では、研究の一端に触れることで研究マインドを身に着けます。将来、放射線技術科学の指導者や教育者並びに研究者として、当分野を支え得る質の高いすぐれた人材の育成を目指します。例年、11月下旬頃に卒業研究発表会が開かれ、研究成果を皆の前で発表し、活発な質疑応答が行われます。研究の一端に触れることはもちろん、発表の技術を身につけることも卒業研究の重要な目標の1つです。

検査技術科学専攻 Medical Technology

病気の原因・治療方法を判断するための先端技術を学びます

臨床検査全般に関する学問領域です。現在の医療において、検査は診断・治療の指針となる重要なデータを提供しています。生体成分の質的・量的変動を捉える化学検査、体内に侵入した病原菌・ウィルスを特定する病原検査、組織や細胞の形態的変化を捉える病理検査、生体の活動を直接捉える生理検査や画像検査、輸血・移植領域で欠かせない免疫学的検査などがあり、これら検査法の開発・応用や病態との関連を解析するなどの研究を行います。

1年次

専門教育へ向けた基盤づくり

人間性豊かで幅広い教養と優れた倫理観、深い専門知識を有する臨床検査技師の育成へ向けた学習の第一歩を踏み出します。特に、東北大学共通の全学教育を学ぶことで幅広い教養と柔軟な思考力を身につけ、専門教育の早期開始により専門知識修得へ向けた動機付けを行います。

2年次

週の大半が専門科目に

専門科目の授業が本格化し、生活の主体は星陵キャンパスに移ります。1年次に学習した全学教育科目の知識をスタートラインとして、より専門的な新しい知識と出会う毎日です。実習科目も開始され、「検査」を体感しながら技術を身につけ、知識を整理してゆきます。臨地（病院）実習に行くための基礎作りの学年です。また、検査の確かな腕を身につけるため、そして講義で学んだことを実際に体験して理解を深めるために、多くの実習があります。3年次の臨地実習、4年次の卒業研究に向けて実験の進め方や結果に対して論理的に考察することを身につけます。

3年次

専門科目の総仕上げ

3年次は、学内実習が中心の前半と臨地実習が中心の後半に大きく分けられます。前半の半年間は午前に講義、午後に実習を行い、後半の臨地実習に向けて知識と技術をまとめます。そして後半が臨床の現場を体験する臨地実習になります。この実習を通じて臨床検査技師という職種が病院という組織の中で果たしている役割を学びます。そして、自分が大学で学んできた知識と技術がどのような意味を持ち、どのようなことに役立つのかを肌で感じることができます。このような経験を通して、卒業後の自分の進路を考えていくことになります。

4年次

充実した研究活動ときめ細かな国家試験対策

卒業研究では、4月～11月まで8か月間にわたり、検査専攻内の各分野に加え、大学病院・医学科・加齢研などの様々な研究室に配属され、充実した研究生活を送ります。卒業研究で研究の面白さに目覚め、大学院博士前期課程（修士）に進学する学生さんも数多くおられます。また、並行して、学内で数回にわたり臨地実習筆記試験・国家試験模擬試験を行うことに加え、試験直前には国家試験問題講習会を行い、きめ細かな国家試験対策を行います。

進路 Career Path

就職だけでなく、大学院に進み、研究者への道を選ぶ卒業生も多くいます。

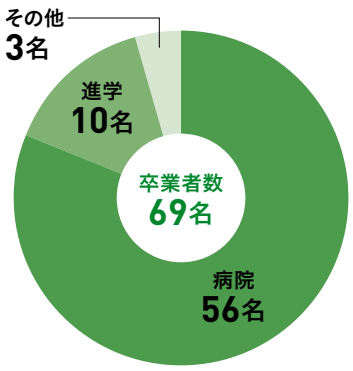
看護学専攻

在籍者数 （令和４年４月１日現在）

279名（男16／女263）

学年	男女別	計
1年	男7／女63	70
2年	男4／女72	76
3年	男3／女59	62
4年	男2／女69	71

進路別割合 （令和４年４月１日現在）



主な就職先

宮城県　東北大学病院
宮城県　仙台市立病院
東京都　東京大学医学部附属病院
東京都　国立がん研究センター中央病院
など

主な進学先

宮城県　東北大学大学院医学系研究科
など

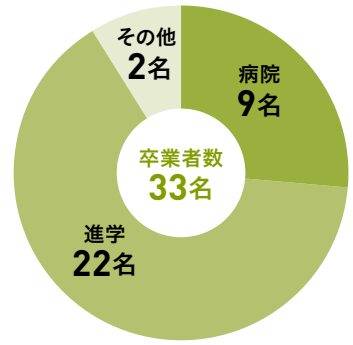
放射線技術科学専攻

在籍者数 （令和４年４月１日現在）

155名（男83／女72）

学年	男女別	計
1年	男20／女19	39
2年	男23／女20	43
3年	男23／女16	39
4年	男17／女17	34

進路別割合 （令和４年４月１日現在）



主な就職先

宮城県　東北大学病院
宮城県　東北公済病院
宮城県　仙台市立病院
東京都　慶應義塾大学病院
など

主な進学先

宮城県　東北大学大学院医学系研究科
など

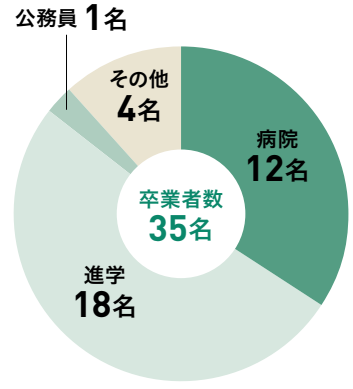
検査技術科学専攻

在籍者数 （令和４年４月１日現在）

154名（男41／女113）

学年	男女別	計
1年	男13／女27	40
2年	男8／女33	41
3年	男9／女26	35
4年	男11／女27	38

進路別割合 （令和４年４月１日現在）



主な就職先

宮城県　東北大学病院
宮城県　宮城県対がん協会
宮城県　石巻赤十字病院
宮城県　みやぎ県南中核病院
秋田県　秋田赤十字病院
など

主な進学先

宮城県　東北大学大学院医学系研究科
など

Voice

学生の声

看護学専攻4年　荒 帆乃夏さん

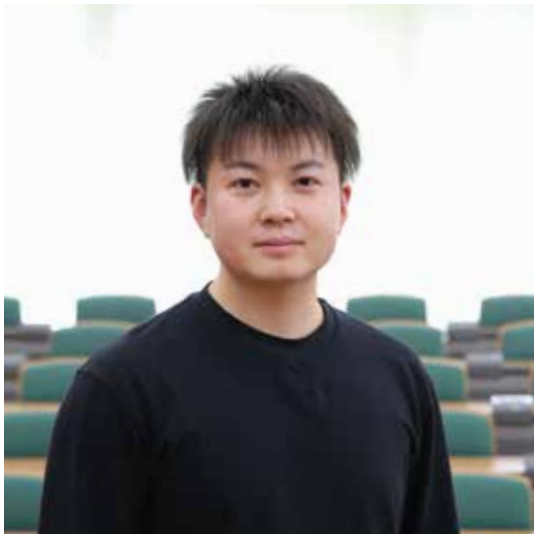
［福島県立福島高等学校出身］

看護学専攻では、1年次より、専門教育科目と全学教育科目を履修します。全学教育科目の中には、他分野の講義や留学生と共に学ぶ国際共修授業、世界で活躍できる人材を目指すTGLプログラムもあり、他学部の国籍も異なる仲間と共に学ぶ事で、自分の価値観や交友の輪を広げる事ができます。また、専門教育科目では、実習や英語論文の抄読、グループワーク、卒業研究など、能動的に学ぶ機会が多々あります。これら4年間の学修を通し、看護技術だけでなく、看護師としての素質を高める事ができます。さらに、選抜試験を経て、在学中に助産の勉強ができる事は、東北大学の強みの1つです。東北大学には、自分の強みや興味を見つけ、新たなことへの挑戦をサポートする環境が整えられています。みなさんと一緒に学べることを楽しみにしています。

放射線技術科学専攻4年　白鳥 雄大さん

［(埼玉県)大宮開成高等学校出身］

放射線技術科学専攻では、診療放射線技師になるための様々な科目を履修します。その中にはX線画像の撮り方はもちろん、基礎医学から放射線物理、さらには放射線機器の仕組みといった工学的な分野もあり、興味の尽きないものばかりです。３年次からは病院実習も始まり、今まで座学で学んだ技術を実際の臨床で見ることができます。また、学年の半数が大学院に進学するほど研究も盛んです。放射線機器や癌の治療に関するものから、人工知能を利用したものまでたくさんの研究テーマが存在し、自分のやりたい研究に没頭することができます。卒業後の進路も技師だけでなく、研究者などの選択肢があります。ぜひオープンキャンパス等にいらしてください！



検査技術科学専攻4年　後藤 浩哉さん

［秋田県立横手高等学校出身］

近年、病院の検査部では検査機器の自動化が進んでおり、検体を機器に搬入するだけで誰でも"結果"だけは得られるという現状があります。しかし、臨床検査技師には、その"結果"の再現性や客観性を保証し、知識を用いて検査値を多角的に評価することが求められています。

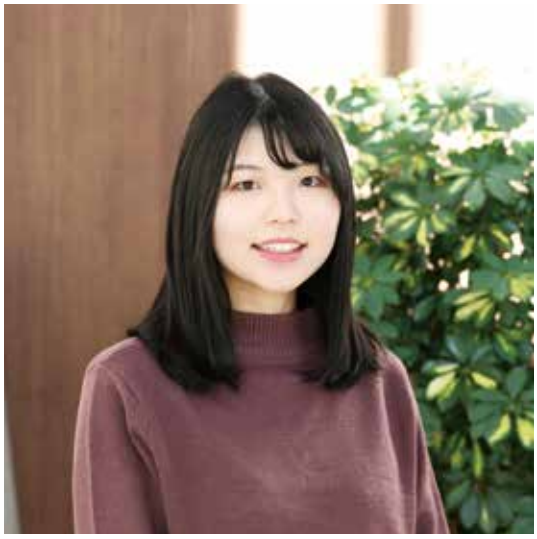
検査技術科学専攻では、臨床検査技師に必要な知識や手技を、講義と実習を通して学ぶことができます。1・2年次は講義や学内実習で、代謝反応や検査項目の原理とその臨床的意義について、先生方から丁寧な指導をいただくことができます。3年次の後期からは大学病院での臨地実習に臨みます。これまで学んだ知識や手技が、臨床の場でどのように活用されるのかを学ぶことができます。

Message

先輩からのメッセージ

東北大学病院　猪股 修也さん
[令和4年3月看護学専攻卒業]

看護学専攻では、1年次から病院や地域で活躍されている医師や看護師、その他多様な医療職の方々から講義をいただく機会が多く、基本的な知識はもちろん、臨床でのチーム医療の実態や看護実践における問題点などの実態を「現場の声」を通して学ぶことができます。そのように現場の実態に触れ生じた疑問や興味などについて、2年次後期からは卒業研究を進めていくことで一連の研究プロセスを学ぶことができます。全国から多くの患者さんが来院する東北大学病院を筆頭に、様々な大学や病院、施設と協力し、充実した研究や実習を行いながら、豊富な知識や技術の獲得、保健師や助産師をはじめとした多様なキャリアアップを本学で目指していきませんか？



前橋赤十字病院　佐藤 千文さん
[令和4年3月放射線技術科学専攻卒業]

放射線技術科学専攻では多方面から放射線について学びます。授業では最先端の研究をしている方や病院で働く方に講義をしていただくこともあり、高いレベルの学習ができます。病院実習は主に東北大学病院で行われ、様々な症例に触れることができます。実際に働く診療放射線技師の方と関わることで将来どのような技師になりたいかを考えるきっかけにもなります。また、研究活動も充実しています。先生方の手厚いサポートにより学部生のうちから学会に参加するなど貴重な経験ができることも魅力です。そのため卒業後は研究の道に進む人も多く、高度な知識と技術を身に付けることで多岐にわたる分野で活躍できると考えます。

東北大学大学院医学系研究科(保健学専攻 博士前期課程1年)　奥村 剛志さん
[令和4年3月検査技術科学専攻卒業]

検査技術科学専攻では、臨床検査技師としての必要な知識や検査手技について、専門の講義や学内実習、臨地実習を通して学ぶことができます。4年次には自分が興味をもった分野について、8か月間、最先端の医学研究に取り組むことができます。本専攻ではその充実した環境の中で行う研究の面白さから、卒業後、毎年約半数の学生が大学院に進学しています。他にも、病院や企業などで幅広く活躍することができます。COVID-19の拡大以降、もはや常識となったPCR検査はまさに臨床検査技師の仕事です。医療の発達と検査技術の発達は密接に関連しており、今後さらに多様化する検査技術を学ぶことができるのは本専攻の特徴であると考えます。

クラブ・サークル活動 Club and Circle activity

東北大学全体のクラブ・サークルとは別に、医学部独特のクラブ・サークルがあります。
医学部の学生は実習時間が多く、毎日十分な練習時間がとれないことから、医学部だけのサークルに入る学生が多いようです。このようなサークルは各医学部・医科大学にあり、特に運動系サークルでは、東日本の大学を集めた専用の大会(東日本医科学生総合体育大会)があります。

クラブ・サークル
活動についての
詳細はこちらから

体育系サークル

- 陸上競技
- 水泳
- ラグビー
- サッカー
- 男子バスケットボール
- 女子バスケットボール
- バレーボール
- 準硬式野球
- 軟式庭球
- 硬式庭球
- 卓球
- バドミントン
- 柔道
- 剣道
- 弓道
- スキー
- ヨット
- 漕艇
- ワンデルング
- ゴルフ
- フットサル
- ビリヤードサークルSCRATCH
- ハンドボール

文化系サークル

- 星陵アンサンブル
- 保健部セツルメント
- 東洋医学研究会
- 写真
- 艮陵新聞
- メディカルインターネットサークル
- 軽音楽
- 星陵混声合唱団
- 救命救急サークルRet's
- 鉄道愛好会
- 医学祭実行委員会
- 茶道
- 臨床推論サークルTeam COOL
- Smile Future JAPAN仙台
- バイク
- 国際保健サークルAmin's
- 国際交流サークルI Health
- 学生会

医学部内の教育・研修施設 Education and Training facilities

附属図書館医学分館

約10万冊の図書、約1万5千タイトルの雑誌を所蔵し、医学系研究科・医学部、歯学部、および東北大学病院などに所属する学生・教職員を対象に、医学関連の専門図書館としての役割を担っています。また、電子ジャーナルや電子ブックも充実しており、医中誌webやPubMed、メディカルオンラインなど幅広くアクセスすることができます。2020年に全面的な改修工事を行い、感染対策の施された個別ブースの学習スペースや、グループ学習室が充実しています。

クリニカル・スキルスラボ

クリニカル・スキルスラボでは、シミュレーターなどを使用して実際の医療現場を模した疑似環境を提供し、医学部生・医師・看護師等の臨床技能教育を安全かつ効果的に行うことができます。臨床現場を反復して再現でき、臨床技能習得のレベルを上げるとともに、学習へのモチベーションを高める効果もあり、教育的有効性は非常に高いことが知られています。また本ラボでは、実技教育を行うだけではなく、ハーフミラーを設置し医療面接でのコミュニケーション能力向上に特化した、医療面接室なども用意しています。

星陵会館

2015年医学部開設百周年記念ホールの完成に合わせ、隣接する学生・教職員の福祉会館である星陵会館もリニューアルしました。この中には書籍も取り扱う売店や食堂のほか、ドリンクや軽食が楽しめるカフェも出店しています。この施設内にはピロティや学生利用が可能なスペースがあり、学生同士のコミュニケーションの場ともなっています。2階には開放式のピロティや大小の会議室があり、学生企画のイベントに利用することができます。

6号館グループ学習室

6号館は2014年に隣の東北メディカル・メガバンク棟と合わせ完成した新しい建物です。この建物の1階には10人程度が収容できるグループ学習室が16部屋用意されています。授業以外では、国家試験や定期試験などの試験対策や医学祭の準備などをグループ内で行う際によく利用されています。

修学費と奨学制度 【医学科・保健学科】

諸費用

学部・大学院の諸費用は下記のとおりです。

諸費用(2022年度)	検定料	入学料	授業料
学部学生	17,000円	282,000円	535,800円／年
大学院学生	30,000円	282,000円	535,800円／年
研究生(学部・大学院)	9,800円	84,600円	29,700円／月
科目等履修生	9,800円	28,200円	14,800円／単位
特別聴講学生	― 円	― 円	14,800円／単位
特別研究学生	― 円	― 円	29,700円／月

※学部学生及び大学院学生の授業料は、年額です。
※科目等履修生及び特別聴講学生の授業料は、1単位に相当する授業についての額です。
※特別研究学生の授業料は、月額です。

日本学生支援機構等による奨学金

学業成績及び家計状況などの書類審査を経て候補者が推薦されたのち、奨学生としての採用が決まります。

日本学生支援機構による奨学金(第一種の場合)

学部		大学院	
自宅通学	自宅外通学	博士前期課程	博士後期課程
45,000円	51,000円	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円

日本学生支援機構による奨学金の他に、都道府県等の地方公共団体、民間事業団体、個人の奨学財団等による奨学生の募集があります。学部等の推薦を受けて申し込み、採用の場合は貸与を受けることができます。(本人が申請する場合もあります。)

奨学生募集地方公共団体(令和3年度)

青森県、八戸市、秋田市、山形県、福島県、いわき市、新潟県、千葉県、茨城県、栃木県、滋賀県、静岡県、など。

奨学生募集民間財団等(令和3年度)

日揮・実吉奨学会、ピジョン奨学財団、川野小児医学奨学財団、杜の邦育英会、みずほ育英会、亀井記念財団、きらやか銀行、尚志社、ナガワひまわり財団など。

授業料免除・徴収猶予・分納

授業料は、4月と10月に分けて納付することになりますが、経済的な理由により納付することが困難であり学業成績が優秀な者は、選考により免除(全額又は半額)されることがあります。また、期限までに納付することが困難な場合には、徴収猶予・月割分納の制度もあります。

授業料・入学料免除状況(令和3年度)(人) ※東日本大震災に伴う経済支援を含む

	授業料免除						入学料免除			
	前期分			後期分			学部	大学院		計
	学部	大学院	計	学部	大学院	計		前期	後期	
出願者数	123	166	289	119	150	269	14	29	6	49
全額免除者数	84	27	111	81	75	156	8	4	3	15
2/3免除者数	10	0	10	14	0	14	5	0	0	5
半額免除者数	15	129	144	15	72	87	0	1	0	1
1/3免除者数	8	0	8	3	0	3	1	0	0	1
一部免除者数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
不許可者数	6	10	16	5	3	8	0	24	3	27

褒賞制度

賞の名称	対象学生	令和3年度人数(人)
医学部学生奨学賞	医学科学生	9
海外留学奨学援助制度	医学科3年、6年	海外留学取りやめ※

※新型コロナウイルスの流行により、海外留学は中止。
参考：令和元年度実績13人

入試情報【医学科・保健学科】

入学試験実施状況(令和4年度実績)

一般選抜(前期日程)	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	77	50	25	25
志願者	242	134	47	85
第1段階合格	231	134	47	76
受験者	212	116	39	66
合格者	81	55	27	33
入学者	80	50	27	32

AO入試Ⅱ期	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	15	10	4	4
志願者	85	36	16	12
第1次選考合格	50	19	8	6
受験者	50	19	8	6
合格者	15	10	4	1
入学者	15	10	4	1

AO入試Ⅲ期	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	12	10	8	8
志願者	74	25	16	15
第1次選考合格	36	15	14	10
受験者	36	15	14	10
合格者	12	10	8	7
入学者	12	10	8	7

地域枠入試	医学科	
	宮城県枠	岩手県枠
募集人員	7	2
志願者	12	5
第1次選考合格	9	5
受験者	9	5
合格者	7	2
入学者	7	2

国際バカロレア入試	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	3※	—	—	—
志願者	1	—	—	—
第1次選考合格	0	—	—	—
受験者	0	—	—	—
合格者	0	—	—	—
入学者	0	—	—	—

帰国生徒入試	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	3※	—	—	—
志願者	8	—	—	—
第1次選考合格	3	—	—	—
受験者	3	—	—	—
合格者	2	—	—	—
入学者	2	—	—	—

私費外国人留学生入試	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	3※	若干人	若干人	若干人
志願者	2	0	1	0
受験者	2	0	1	0
合格者	0	0	0	0
入学者	0	0	0	0

※合わせて3名

国費外国人留学生選抜	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	若干人	若干人	若干人	若干人
志願者	2	0	0	0
受験者	2	0	0	0
合格者	1	0	0	0
入学者	1	0	0	0

募集人員

	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
一般選抜(前期日程)	75	48	25	25
AO入試Ⅱ期	15	12	4	4
AO入試Ⅲ期	12	10	8	8
国際バカロレア入試	合わせて3	—	—	—
帰国生徒入試		—	—	—
私費外国人留学生入試		若干人	若干人	若干人
計	105	70	37	37

試験科目

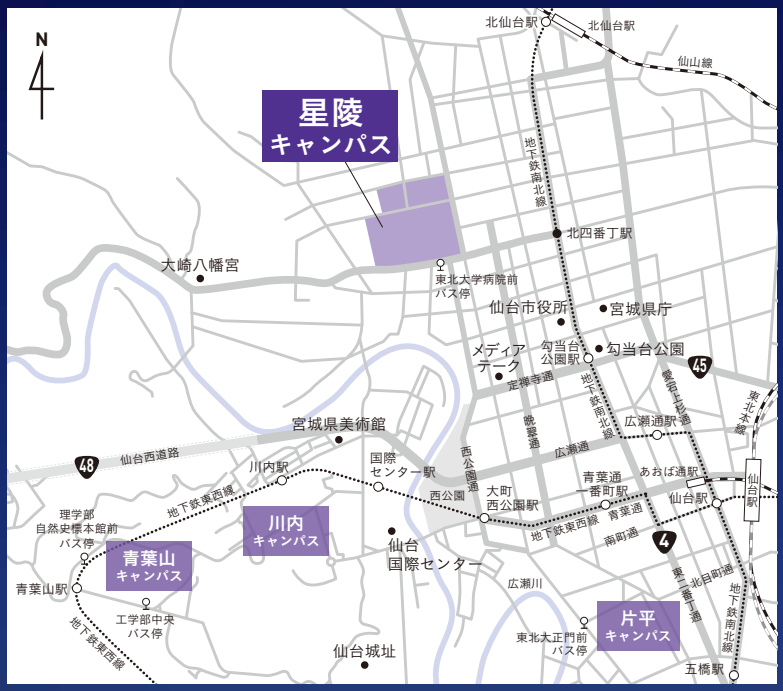
	医学科	保健学科
一般選抜(前期日程)	大学入学共通テスト 数学・理科・外国語・面接(小作文含む)	大学入学共通テスト 数学・理科・英語・面接
AO入試Ⅱ期	筆記試験・面接	筆記試験・面接
AO入試Ⅲ期	大学入学共通テスト 筆記試験・面接	大学入学共通テスト 筆記試験・面接
国際バカロレア入試	筆記試験・面接	—
帰国生徒入試	筆記試験・面接	—
私費外国人留学生入試	面接	学力試験・面接(看護学専攻は面接のみ)

出身県別入学者数(令和4年度実績)

地区		医学科	保健学科		
			看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
北海道・東北	北海道	4	0	1	2
	青森	9	6	1	4
	岩手	5	4	5	0
	宮城	20	26	8	13
	秋田	0	6	3	3
	山形	1	6	2	1
	福島	2	4	6	2
関東		53	6	11	7
中部		19	9	2	7
近畿		1	2	0	0
中国		1	0	0	0
四国		1	1	0	0
九州・沖縄		0	0	0	0
その他・外国の学校等		3	0	0	1
計		119	70	39	40

今後の入試の変更点

詳しくは東北大学入試センターのウェブサイト(http://www.tnc.tohoku.ac.jp/)をご確認ください。



東北大学医学部 医学科

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL.022-717-8009【教務課学部教務係】
FAX.022-717-8021
E-mail: med-kyom@grp.tohoku.ac.jp

東北大学医学部 保健学科

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1
TEL.022-717-7905【教務課保健学科教務係】
FAX.022-717-8021
E-mail: cms-kyom@grp.tohoku.ac.jp

https://www.med.tohoku.ac.jp/

■Facebook
https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine
■Twitter
https://twitter.com/tohoku_univ_med
■YouTube
https://www.youtube.com/c/東北大学大学院医学系研究科